

## 「福島大学あぶくま学生支援基金」設立趣意書

2011年3月11日に発生した東日本大震災により、福島は、未曾有の大地震と大津波に襲われただけでなく、東京電力福島第一原子力発電所事故の深刻な影響により、震災から1年が経過してなお、復旧・復興の見通しがたっていません。

しかしながら、こうした困難な状況においても、福島大学の学生たちは、震災を契機として、それぞれの生き方を模索し、他者の役に立ちたいという思いを強め、震災支援ボランティア活動だけではなく、他大学生との交流、学習会の開催など、学生主体の自主的活動を積極的に展開してきました。

福島大学行政政策学類は、その前身である行政社会学部時代から、「地域に学び、地域に貢献し、地域とともに歩む学類（学部）」として、学生の発案による地域活動やフィールドワークを実践してきました。そして、このたび行政政策学類と学類同窓会「阿武隈会」は、阿武隈会からの拠出金1千万円を原資とした「福島大学あぶくま学生支援基金（以下、あぶくま基金）」を立ち上げ、今後5年間にわたり、学生の活動を支援していくこととしました。

福島大学は、被災地における拠点大学として、教育、研究、地域連携の使命を果たしていますが、学生の力を通じた復興支援は、学生ならではの自由な発想と卓越した行動力によって、福島の復旧・復興に対して大きな貢献をするものと期待されます。あぶくま基金では、学生の自主的な企画に基づくプロジェクトや地域社会から委託されたプロジェクトを積極的に支援していく予定です。

平成24年4月

福島大学行政政策学類長 辻 みどり  
福島大学行政政策学類同窓会阿武隈会長 小田島 拓哉